

発表番号 20

「トレイルカメラを用いて野生動物による造林木の皮剥被害を検証する」

独立行政法人森林総合研究所

森林農地整備センター 福島水源林整備事務所

蓼内 隼人、 滝沢 勝

1. 課題を取り上げた背景

当事務所で管轄する造林地において、動物による造林木の皮剥被害が近年多発しています。皆さんの造林地でもこのような被害が確認されているとは思いますが、痛ましい事に良質な木から被害に遭う傾向にあります。願わくば間伐対象となる木からアタックしてくれればありがたいのですが.....

このような皮剥被害を防ぐため、当事務所では、ロープ巻、パークガード、サブリガード等、様々な防除方法を実施し、造林者の方々と一緒に試行錯誤しているところです。

今回発表する福島県南会津町栗生沢にある造林地で皮剥被害の調査をしていた



.....皮剥被害の状況.....

ところ、被害の痕跡から全て

ツキノワグマによるものだと我々は判断しました。しかし地元の造林者が、これはニホンジカだ。いやカモシカだ。と様々な見解を示してきます。確かにその造林地では、シカの糞がいたる所で確認されます。

そこで当事務所としましては、被害を及ぼす動物を特定し適切な防除を実施するため、平成25年4月中旬に定点カメラ(通称トレイルカメラ)で動物を撮影し観測する事にしました。

2. 具体的な取り組み

3台のトレイルカメラを設置するにあたり、動物の糞等がある通り道でかつ、皮剥被害が多く見受けられる箇所に設置しました。

このカメラは動く物に反応し一秒間隔でコマ送りの的に写真が撮影されるので、動物の行動が流れるように把握でき、また夜間撮影も可能なため、夜の行動も把握できます。

概ね月に1回程度、カメラのデータを回収しデータを収集しました。

3. 取組の結果

残念ながら今年は動物が樹皮を剥いている様子は撮影できませんでした。

ただ撮影された動物は、ニホンジカが大量に撮れており、たまにカモシカも撮影されています。

ツキノワグマは一枚しか撮影されていませんでした。

決定的な写真は撮影されていないので、断定的な事は言えませんが、この造林地で皮剥している動物は、ニホンジカかカモシカの可能性が高まってきました。



.....トレイルカメラの撮影状況.....

4. まとめ

今年1年では、決定的な写真を撮影する事は出来ませんでしたが、撮影箇所、台数等を考えたうえ、観測を続け、各々の動物に対する防除方法の有効性を確認して行き、その他、経済性・施工性等も考慮に入れ、より良い防除方法を確立して行きたいと思います。